

Back Number

本論文は

世界経済評論 2024 年 7/8 月号

(2024 年 7 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%
送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

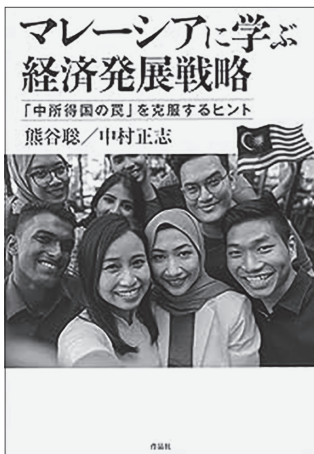
Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

マレーシアに学ぶ 経済発展戦略

：「中所得国の罠」を克服するヒント

国際貿易投資研究所客員研究員

朽木 昭文



[著者]

熊谷 聡（くまがい さとる）

アジア経済研究所

中村正志（なかむら まさし）

アジア経済研究所

[発行] 作品社，2023 年 10 月

[判型] 四六判，288 頁

[定価] 本体 2600 円＋税

「マレーシアに学ぶ」とあるタイトルは、読者に「何を？」と思わせるだろう。本書は、35 年間の停滞が続く日本にまさに学ぶべき点を教えてくれる本となっている。

1. マレーシアの 3 つの「政策変更」

さて、「ブミプトラ政策」は、マレーシアを理解するうえで根幹をなす。マレー人やサバ、サラワクの先住民族を重視する政策である。経済発展過程で 3 つの転換点があった。第 1 に、1970 年代からにブミプトラ政策が採られた。第 2 に、1980 年代後半から輸出指向政策により経済成長重視へ転換した。第 3 に、2000 年代後半から民間消費の内需拡大を目指す民族を

問わない「再分配方式」を目指した。

2. 第 3 の「政策変更」の「再分配方式」とは

マレーシアの「中所得国の罠」からの脱出法は、制度の変更であった。具体的な制度変更として、マレー人だけではなく民族を問わない全体の層に最低賃金制度と給付金を導入し、内需の消費を拡大した。これが、再分配におけるブミプトラ政策の転換である。

本書は、この政策転換を可能とした政治の過程を克明に分析した。特に、2008 年の 3 党の政党連合「人民連盟」に関する図解分析は納得である。

3. 適切な政策変更「選挙」が必要な理由

経済には「経路依存性」がある。つまり、慣性の法則であり、前の所得段階の時に行われた政策の影響が、次の所得段階になってから現れてくることが多い。したがって、経済発展を経路変更するためには、政策を変更する必要がある。

本書は、この転換点をもたらした要因が「選挙」であることを明らかにする。マレーシアは、「競争の権威主義」と呼ばれる政治体制を 2018 年まで保ち、「競争性の高い選挙」を定期的に実施した。この「選挙」こそが原動力となった。

4. このモデルから日本の学ぶ点

以上のことを「経済」と「政治」においてそれぞれの第 1 線の研究者が丁寧に論証している。近年はプーチン・ロシアのウクライナ侵攻など地政学的リスクが増大している。本書の経済と政治の両面からの新しい分析手法は、有効であり、現実を理解するうえで不可欠である。

ところで、マレーシア・マハティール首相の 1982 年に採った「ルックイースト政策」は、当時の日本や韓国を範とする政策である。この政策は、インドがアジアを模範とする政策として採用された。そして、日本は、長期にわたり政治改革が遅れたために、経済が停滞する。ブーメランとして「マレーシアに学ぶ」ことを必要とする。これが本書の教訓である。

（くちき あきふみ）